

1 基本方針

- 式典会場内に、お手植え所、お手播き所、代表者記念植樹地を設けます。
- 参加者(代表者以外)の記念植樹は、とっとり花回廊いやしの森及び国立公園奥大山鏡ヶ成高原めぐみの森の各植樹会場で行います。
- 植樹行事は、鳥取県の気候風土に適した樹種の植栽等、地域特性に応じた森林づくりを目指します。
- 種子の採取から育成、植えつけまでの各行為を植樹ととらえ、森林づくり活動の拡大につなげていくきっかけとなるように、多様なボランティア、子どもたち、高齢者、障がい者などを含む、できるだけ多くの県民や、「とっとり共生の森」参画企業等が参加できるようにします。
- 多くの方が植樹活動に参加できるよう、全国植樹祭開催後に自由植樹の期間を設けます。
- 県内で採取した種子を使って、「苗木のスクールステイ・ホームステイ」により子どもたちや企業・団体等が育てた苗木や、生産者が育成した苗木を使用します。
- 植樹会場は、永続的な県民運動の活動の場として、県民誰もが森林や自然にふれあい、学習、体験などができる森をつくります。

会場	位置	内容		面積	本数等
式典会場	お手植え所	お手植え	天皇皇后両陛下	—	6本
	お手播き所	お手播き			4種
	中央・県外特別招待者席	代表者記念植樹	招待者の代表	—	50本程度 (50人程度)
	県内特別招待者席				
植樹会場	とっとり花回廊いやしの森	参加者記念植樹		3.4ha	4,500本
	国立公園奥大山鏡ヶ成高原めぐみの森			0.4ha	500本

2 お手植え計画

- 天皇皇后両陛下のお手植えは、お手植え所で「森」の字をかたどり、それぞれ3本の植樹とします。
- 樹種は、鳥取県の自然条件にあった在来の樹種の内、高木性を中心に県民に親しみのあるものとし、両陛下にそれぞれ3種類の植樹を賜ります。
- お手植えされた記念樹は、森林づくり運動のシンボルとして、大切に管理・育成します。

〔お手植え樹種(6種)〕

アカマツ (とっとりパワー松)	スダジイ	コナラ
ヤマボウシ	ウワミズザクラ	ホオノキ

〔天皇陛下お手植え樹種(3種)〕

樹種	特徴・選定理由等
<p style="text-align: center;">アカマツ (とっとりパワー松)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内に広く自生し、とくに大山周辺のものには「大山マツ」として全国的に有名です。 ・県西部地域は、良質な砂鉄と豊富なマツ炭に恵まれ、かつてはたたら製鉄が盛んでした。 ・県が開発した松くい虫に強い品種「とっとりパワー松」を、後継樹として植栽します。 ・アカマツは昭和40年に大山町で開催された第16回植樹行事並びに国土緑化大会(現在の全国植樹祭)において、昭和天皇・香淳皇后によってお手植えされた樹種です。
<p style="text-align: center;">スダジイ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内に広く自生する代表的な極相種(常緑広葉樹林の優占種)です。 ・昔から、鎮守の森など地域で大事に守られたことから巨樹巨木が多く、天然記念物に指定されています。 <ul style="list-style-type: none"> ・県中部の琴浦町には、幹回り11.4m、樹齢千年以上といわれる「伯耆の大シイ」があり、昭和12年に国の天然記念物に指定されています。 ・実は渋がなく生で食べることが出来るので、縄文時代には貴重な食糧でした。 ・県西部にある国内最大級の弥生時代の集落「妻木晩田遺跡」では、竪穴住居の柱などの建築部材にも使われていました。
<p style="text-align: center;">コナラ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の里山(二次林)を代表する樹種の一つで、ハハツ、ホウソ、ホウボウソなどの方言で呼ばれています。 ・萌芽更新が容易なことから、かつては燃料や肥料として利用されていました。 ・シイタケの原木栽培に多く用いられています。 ・樹液が豊富なため、夏になるとクワガタムシなどの昆虫が多く集まります。 ・秋にはドングリがたくさん出来、野生動物の豊富な餌資源となっています。

〔皇后陛下お手植え樹種(3種)〕

樹種	特徴・選定理由等
<p style="text-align: center;">ヤマボウシ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の山地に見られる落葉広葉樹の一つで、イツキ、ウツキなどの方言で呼ばれています。 ・初夏に黄緑色の小さな花が集まり球形の花序をつくり、その周りに白い4枚の総苞片が開くため、全体として一つの花のように見えます。 ・花に見える白い4枚の総苞片が開いた姿が、山法師のように見えるというのが名前の由来です。 ・秋には球状の赤い実をたくさん付け、野鳥が好んで食べます。
<p style="text-align: center;">ウワミズザクラ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の山地に見られる落葉広葉樹の一つで、ハハカ、ネズラ、メズラ、ゴテンザクラなどの方言で呼ばれています。 ・普通の桜と異なり、春に総状花序を出し、白い花をたくさん付けます。 ・夏から秋にかけて赤い実がなり、野鳥が好んで食べます。 ・名前の由来は、古代、鹿の肩甲骨の裏側に溝をつけ、焼いた木(本種)を押しつけて占ったことから、ウラムゾ→ウワミゾ→ウワミズとなったという説があります。
<p style="text-align: center;">ホオノキ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の山地に見られる落葉広葉樹の一つで、フデノキ、ホホバなどの方言で呼ばれています。 ・春から初夏にかけ、大きな緑色の葉の中心に、香りの良い大輪の白い花を咲かせます(日本最大)。 ・大きな葉は、昔から食べ物を包むのに利用されており、現在でも朴葉焼きなどに利用されます。 ・秋に赤い袋果をつけ、野鳥が好んで食べます。

3 お手播き計画

- 天皇皇后両陛下のお手播きは、お手播き所で、お手播き箱へそれぞれ2種類の播種とします。
- お手播きの種子は、鳥取県の自然条件にあった在来の樹種の内、高木性を中心に県民に親しみのあるものとしてします。
- お手播きされた種子は鳥取県が管理・育成し、県内公共施設等に広く「記念樹」として配布し、植樹いただきます。

〔お手播き樹種(4種)〕

ヤマザクラ	クリ
イロハモミジ	ヤマガキ

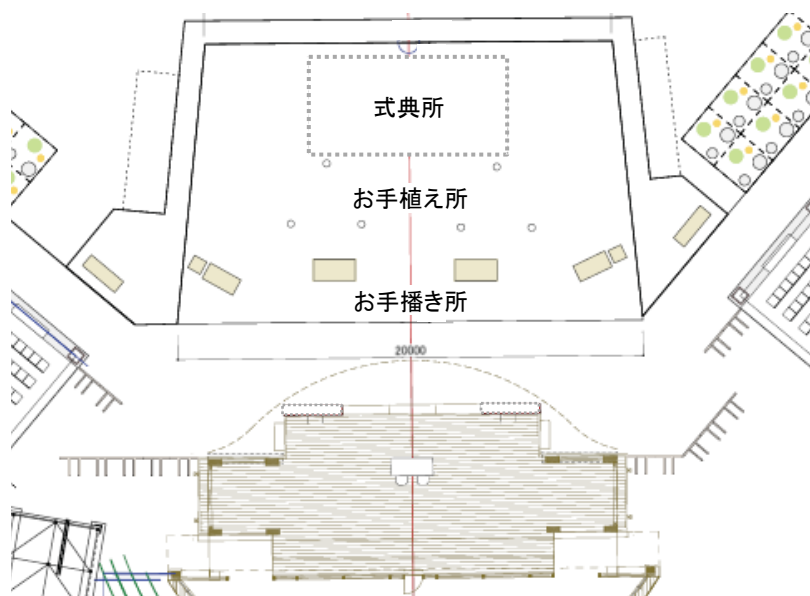
〔天皇陛下お手播き樹種(2種)〕

樹種	特徴・選定理由等
<p>ヤマザクラ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内を代表する野生の桜で、県内にも広く自生しています。 ・早春、葉と同時に花が開き、紅色の若葉と淡紅白色の花のコントラストが見事です。 ・秋の紅葉も見事で、晩秋の山を彩る樹種の一つです。 ・ナメコの原木栽培に多く利用されています。
<p>クリ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の里山を代表する樹種の一つです。 ・野生のいわゆる「シバグリ」で、本種を基に多くの栽培品種が作られました。 ・クリの実は、縄文時代の遺跡から出土しており、古来重要な食糧でした。 ・万葉集の、山上憶良が「瓜食めば子ども思ほゆ、栗食めばまして俣ばゆ」と詠んだ「子等を思ふ歌」が有名です。 ・現在でも、正月の縁起物として「勝ち栗」が用いられます。 ・材は、堅く腐りにくいため、枕木、建築材、器具材に用いられます。 ・県西部にある国内最大級の弥生時代の集落「妻木晩田遺跡」では、竪穴住居の柱などの建築部材にも使われていました。

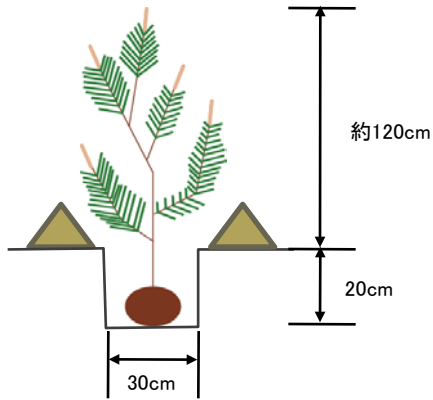
〔皇后陛下お手播き樹種(2種)〕

樹種	特徴・選定理由等
<p style="text-align: center;">イロハモミジ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内に広く自生する落葉広葉樹の一つです。 ・公園や庭園などに多く植えられていることから、モミジの木として身近な樹種です。 ・本種を基に多くの園芸品種が作られています。 ・葉が指を開いた手のひらの形に5～7裂し、春の新緑と秋の紅葉が楽しめます。 ・イロハモミジの名前の由来は、イロハは7つの裂片を「イロハニホヘト」と順番に数えたことに由来しています。
<p style="text-align: center;">ヤマガキ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の里山の原風景として思い浮かぶ代表的な樹種です。 ・秋に柿色の実をたくさんつけ、人も動物も好んで食べます。 ・実はビタミン類が豊富で、昔は栄養価の高い医者いらずの万能薬として重宝されていました。 ・ヤマガキの名前の由来は、実も葉も赤くなるので赤木(アカキ)と呼ばれ、その後「カキ」と呼ばれるようになったという説や、熟した果実が輝いて見えることから「カガヤク」が転じたという説、「噛む(かむ)」が「カキ」になったという説など諸説あります。

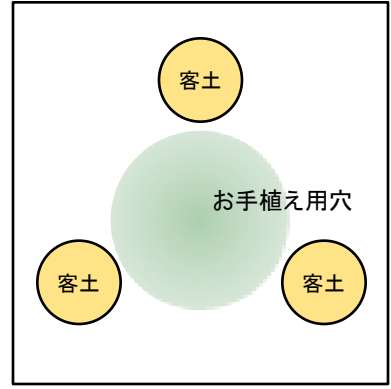
〔お手植え所・お手播き所配置図〕



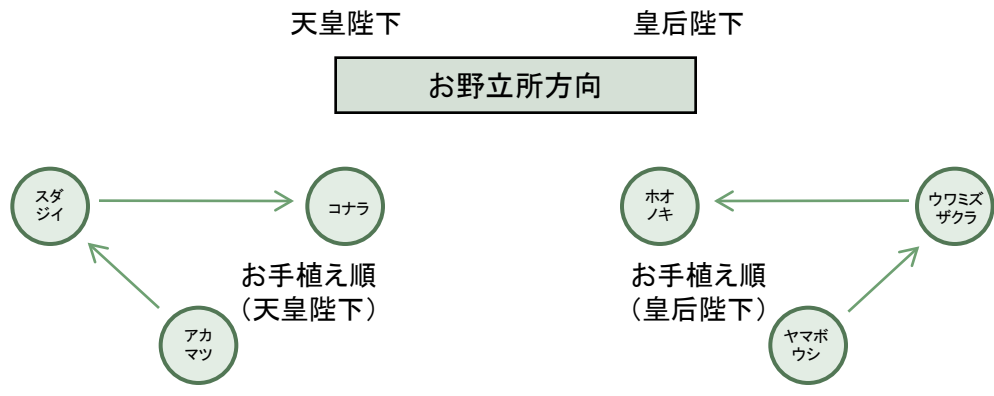
【お手植え標準図】



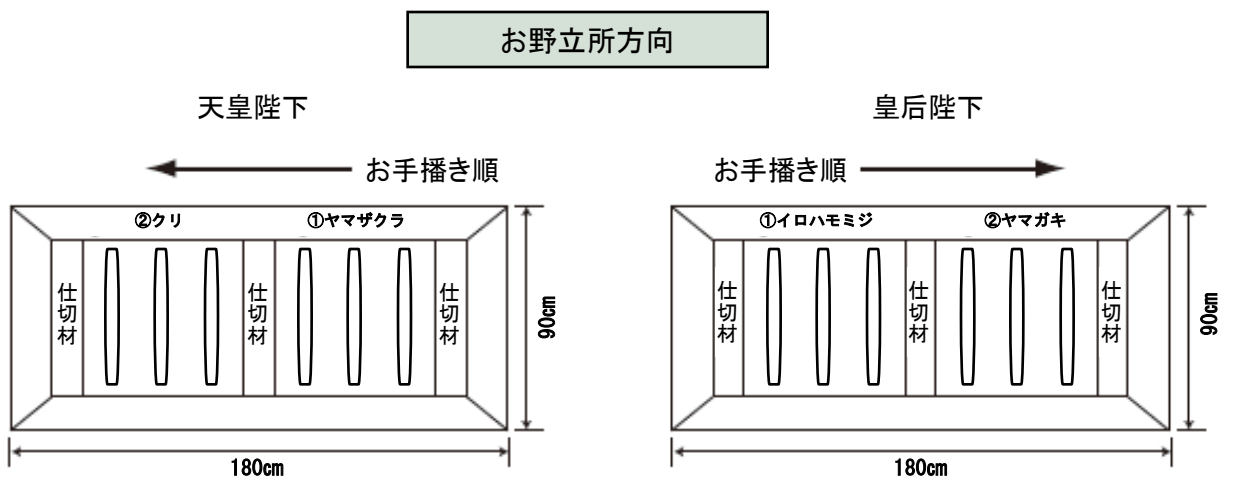
【平面図】



【お手植え樹種配置】



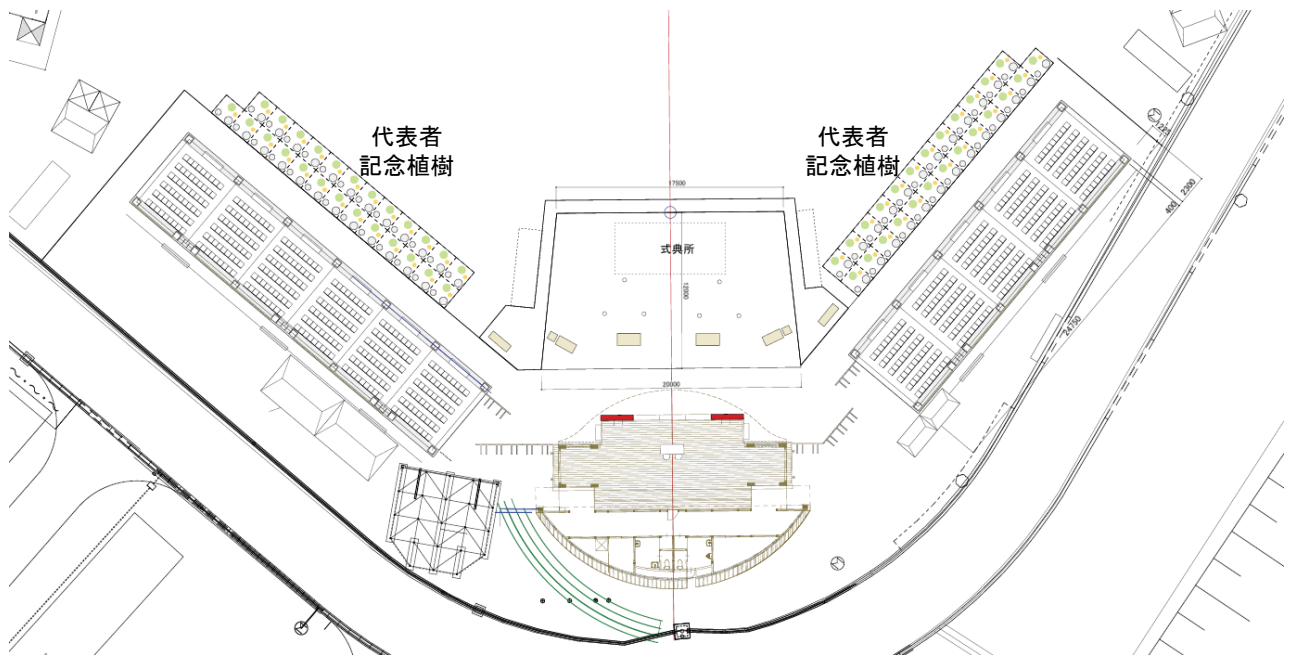
【お手播き樹種配置】



4 代表者記念植樹計画

- 参加者代表は、天皇皇后両陛下の2本目のお手植えと同時に記念植樹を行います。
- 場所は、特別招待者席前で行うものとし、それぞれ1本ずつ植樹を行います。
- 植樹は、天皇皇后両陛下のお手植えと同じ樹種とします。
- 参加者の代表は、中央特別招待者、県内外の特別招待者の中から50人程度とします。

〔代表者記念植樹配置図〕



5 森林づくりの方向性と参加者記念植樹計画

(1) 森林づくりの将来イメージと植樹計画

- とっとり花回廊いやしの森及び国立公園奥大山鏡ヶ成高原めぐみの森の各植樹会場で、地域特性等に合わせて選定された樹種を、未来の森をイメージしながら一人1本以上植樹いただきます。
- 植樹会場の一区画に、「とっとり共生の森」参画企業の協力で、「とっとり連携の森」の植樹を行います。
- とっとり花回廊いやしの森では、第64回全国植樹祭に参加した子どもたちが、記憶を永くとどめ、学習に役立ててもらおうよう、展示植栽スペースを用意し、県木や市町村木等特別な樹種の植栽を行います。
- 植樹用苗木は、県内の児童等、県民が育てた苗木も使用し、植樹後は、みどりの少年団、ボランティア等が手入れを行い、その様子を全国発信します。

〔とっとり花回廊いやしの森／国立公園奥大山鏡ヶ成高原めぐみの森の将来イメージ〕

●交流の森



- 四季の彩りを感じられる樹木を植栽
- イヌシデ、イロハモミジ、ウワミズザクラ、クロモジ、ホオノキ、マユミ、ムラサキシキブ、ヤブツバキ、ヤマガキ、ヤマザクラ、ヤマボウシ、ヤマモモ

●体験の森



- 果実等が小動物や鳥、昆虫の餌となる樹木を植栽。多様な生き物が生息する森とする。
- アオハダ、アカガシ、アベマキ、アラカシ、エゴノキ、エノキ、コナラ、クリ、シラカシ、スダジイ、ヤマガキ

●学習の森



- 子どもたちがメモリアルとして、県木や市町村木等県内の代表的樹木を植栽。観察・学習展示林とする。
- アカマツ、ヤブツバキ、ヤマガキ、ヤマザクラ、ダイセンキヤラボク、県内市町村の木

●生活の森



- 暮らしの中で、薪炭、シイタケ原木、用材として利用可能な樹木を植栽。下刈や落ち葉かき作業等で下層を整理。
- アカガシ、アラカシ、ケヤキ、コナラ、シラカシ、スダジイ

(2)参加者記念植樹樹種

〔とっとり花回廊いやしの森/参加者記念植樹樹種(25種程度)〕

アオハダ	アカガシ	アカマツ	アベマキ
アラカシ	イヌシデ	イロハモミジ	ウワミズザクラ
エゴノキ	エノキ	クリ	クロモジ
ケヤキ	コナラ	シラカシ	スダジイ
ホオノキ	マユミ	ムラサキシキブ	ヤブツバキ
ヤマガキ	ヤマザクラ	ヤマボウシ	ヤマモモ

※50音順に記載

〔国立公園奥大山鏡ヶ成高原めぐみの森 /参加者記念植樹樹種(20種程度)〕

アオハダ	アズキナシ	イタヤカエデ	ウリハダカエデ
ウワミズザクラ	オオカメノキ	クリ	クロモジ
サワグルミ	タニウツギ	ツノハシバミ	トチノキ
ナナカマド	ブナ	ホオノキ	ミズキ
ミズナラ	ミズメ	ヤマボウシ	

※50音順に記載

(3)参加者記念植樹スケジュール

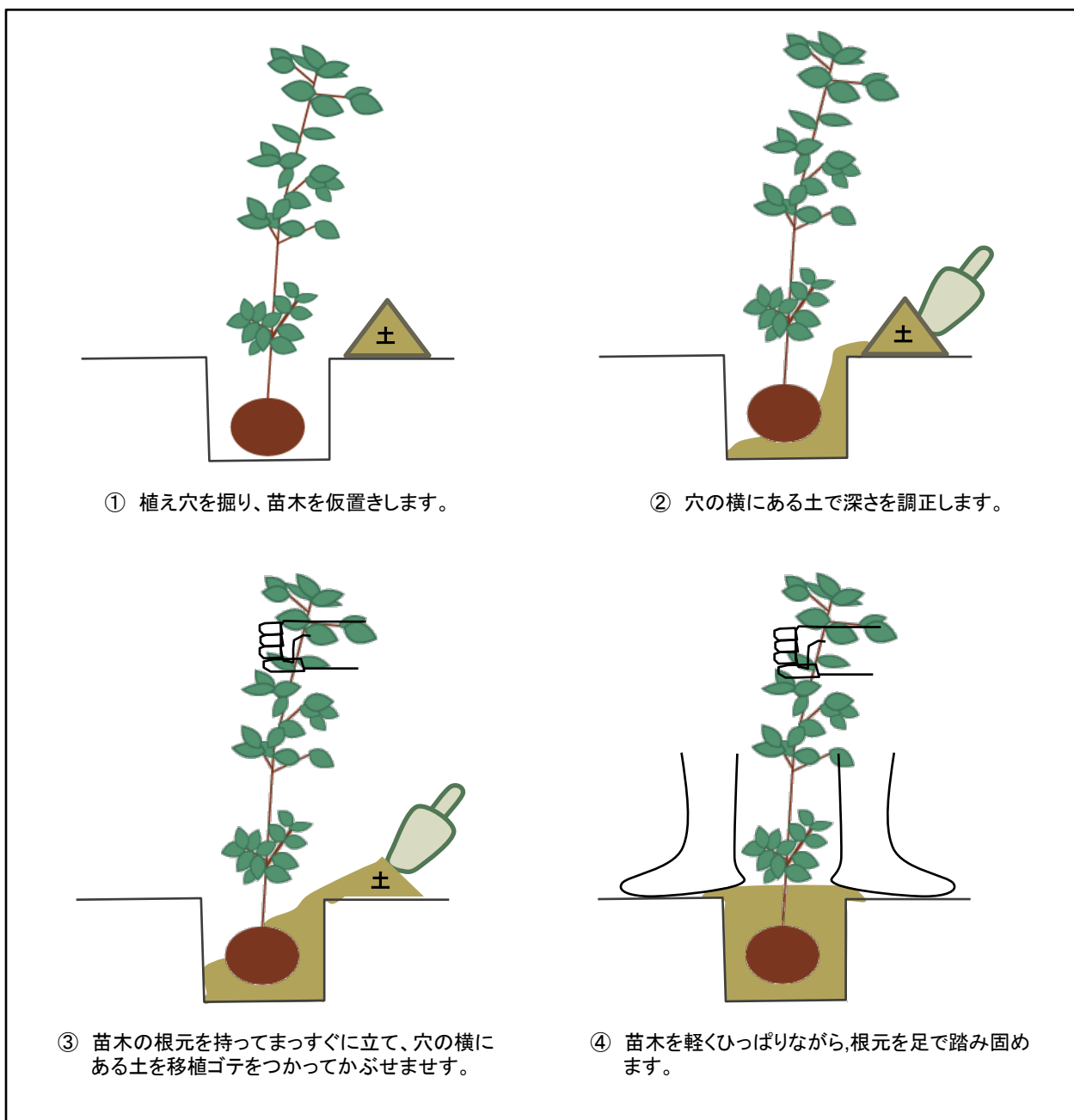
〇とっとり花回廊いやしの森では、午前・午後に分かれて、国立公園奥大山鏡ヶ成高原めぐみの森では、午前に植樹していただきます。

区 分		植樹会場	グループ	植樹概要
特別招待者	県外招待者	いやしの森	午前植樹	バスで宿泊施設から植樹会場へ移動し、植樹を行った後、徒歩で式典会場の入場ゲートに向かう。
			午後植樹	バスで指定集合地から式典会場へ向かい式典に参加。式典終了後、徒歩にて植樹会場へ移動する。
	県内招待者	いやしの森	午前植樹	バスで宿泊施設または、指定集合地から植樹会場へ移動し、植樹を行った後、徒歩で式典会場の入場ゲートに向かう。
			めぐみの森	午前植樹
一般招待者	県外招待者	いやしの森	午前植樹	バスで宿泊施設から植樹会場へ移動し、植樹を行った後、徒歩で式典会場の入場ゲートに向かう。
			午後植樹	バスで指定集合地から式典会場へ向かい式典に参加。式典終了後、徒歩にて植樹会場へ移動する。
	県内招待者	めぐみの森	午前植樹	バスで宿泊施設から植樹会場へ移動し、植樹を行った後、再びバスで式典会場の入場ゲートに向かう。
			いやしの森	午後植樹
		めぐみの森	午前植樹	バスで指定集合地から植樹会場へ移動し、植樹を行った後、再びバスで式典会場の入場ゲートに向かう。

(4) 植樹要領

- あらかじめ目印棒で示した位置に、直径20cm、深さ15cm程度の植穴を移植ゴテで掘り、苗木を植穴の中央に入れます。(場所によっては、あらかじめ植え穴を掘っておきます。)
- 苗木のサイズに応じて、苗木の根元と地面の高さが同じになるように客土を入れ、幅・深さを調整します。
- 苗木はまっすぐになるよう手で支えながら、苗木の周りに移植ゴテで客土を入れます。
- 地面から少し盛り上がるまで土をかぶせたら、苗木を軽く引っ張りながら根元の土を踏み固めます。

【植樹要領図】



6 植樹会場整備計画

(1)とっとり花回廊いやしの森

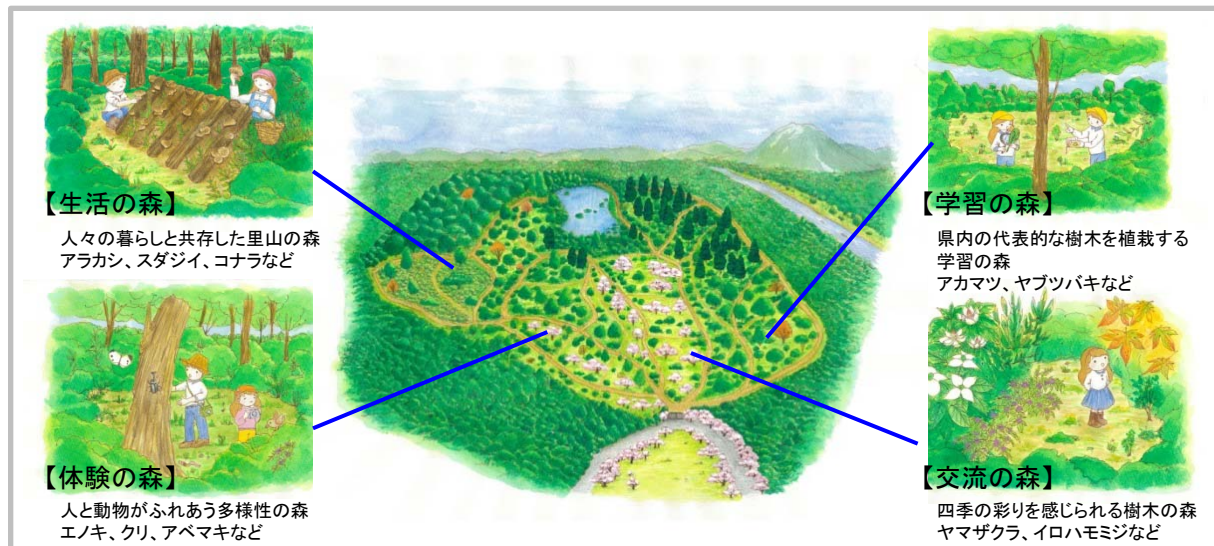
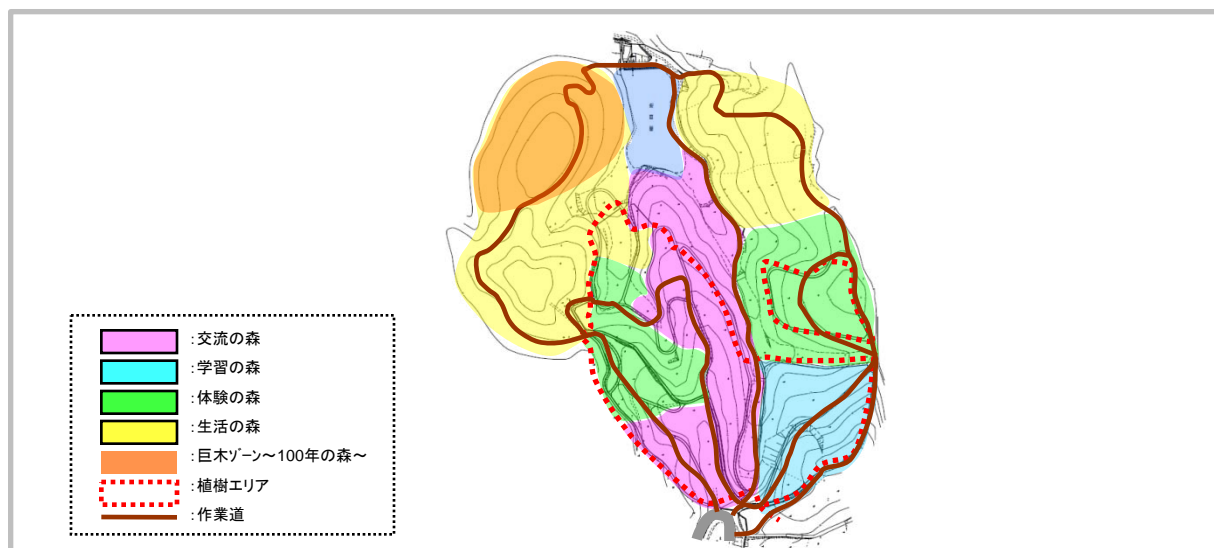
【現状】

里山利用(木立や枝葉・下草を、家庭用燃料や肥料として採取利用)が行われなくなったため、草木が乱雑にしげった「やぶ」状態になっています。

【整備計画】

- 現地の植生を踏まえ、いやしの森全体を将来イメージの4つのゾーンに区分します。
- 会場は、薪、木炭、シイタケ原木となる木立や枝の採取、堆肥となる落葉や下草の採取、野生キノコやクリ等の果実の採取、四季折々の美しい花木の観賞、野鳥の観察、カブトムシやクワガタ等昆虫の観察等の場として利用可能であり、これら「里山のめぐみ」の体験フィールドとしての森林づくりを進めます。
- やぶを整理し、植栽が必要となった区域を植樹会場に設定し、多様性を保ちながら各ゾーンにふさわしい植栽樹木を選定します。
- 巨木に囲まれ多様性の高い区域は、現状のまま自然林として生かします。
- 植樹祭時は参加者の動線を確保し、開催後は体験活動のサポートを図るため、地形に沿った環境に優しい鳥取式作業道による軽車道と間伐材チップをマルチングに活用した歩道を整備します。

〔将来イメージ〕



(2) 国立公園奥大山鏡ヶ成高原めぐみの森

【現状】

戦後の開墾地が放置され、一面のススキ野原となり、現状のままでは幼樹の侵入が困難なため森林への復旧が困難な原野となっています。

【整備計画】

- 現地周辺の植生に配慮しつつ、ススキに覆われた原野を森林へ早急に戻す森林づくりを考えます。
- 地元で始まっているブナの森づくり活動を展開する場として位置づけ、森林を2つのゾーンに区分します。
- 区画全体の刈り払いを行い、ゾーンの区分けも兼ねた作業道及び歩道を整備し、中央に地元小・中学校の森林体験活動を行うゾーンを設置。これと外周の森林をつなぐ区域を植樹会場に位置づけます。
- 植栽木の植樹木は、現地適性の高いナラ類とし、ミズナラ、ブナ、ホオノキ、トチノキ、ミズキ、カエデ類等を混植します。
- 中央のゾーンは、子どもたちが種から育てたブナの苗木を毎年継続的に植栽し、下刈など森林活動体験を行います。

【将来イメージ】

